

本大会の基調講演はオンデマンドで行います。会期前に動画配信を開始しますので、ご視聴の上、大会にご参加いただくことができます。

基調講演（オンデマンド配信 9/1 から）

「音楽社会学の視点から見た音楽療法～Care for Music（音楽に心を寄せるということ）」

ティア・デノーラ（イギリス、エクスター大学 社会学教授）

（略歴）

1958 年アメリカ生まれ。音楽社会学者。音楽（専攻楽器はフルート）と社会学をウェストチェスター大学（ペンシルヴェニア）で学び、カルフォルニア大学サン・ディエゴ校にて社会学の博士号を取得。その後、ウェールズ・カーディフ大学のフェローを経て、エクセター大学（英国）にて教鞭を取る。ESA Network on Arts Sociology ほか、数々の学術団体の委員を歴任。2004 年に英国学士院フェロー（FBA）に就任。音楽療法研究者ゲイリー・アンスデル氏と長年にわたって共同研究を行い、共著に Musical Pathway in Recovery (2016)（回復の過程における音楽的経路）がある。またアンスデル氏とともに Routledge Series on Music & Change: Ecological Perspectives の編集者にも加わっている。

（Exeter University および春秋社のホームページより抜粋・編集）

※参考：

エクセター大学サイトの教員紹介ページ

<https://experts.exeter.ac.uk/2215-tia-denora>

エクセター大学とベルゲン大学の共同プロジェクト”Care for Music”のサイト

<https://careformusic.org/>

英国学士院のサイトでフェローとして行った 10 分間トーク”Music and Well-being”

https://www.youtube.com/watch?v=5_rANbrJ0eI

※本大会では、基調講演に向けた事前勉強会（文献輪読会）の開催をサポートしています。勉強会は、私たちがデノーラ先生のことを知り、またデノーラ先生に私たちのことを知っていただく共同の取り組みのプロセスです。詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.facebook.com/profile.php?id=61572895022627>



日本の音楽療法士の方々にこのような形でお会いできるのは、私にとって、とても光栄で特別なことです。この機会を与えてくださった日本音楽療法学会のお招きに、心から感謝します。

私はこれまで、日本の仲間たちとの交流から多くのことを学んできました。例えば、遊びや即興が、セラピーのセッションと日常生活の両面において療法的いとなみとなること。また、「冒険的スピリット」のアプローチですばらしい革新が起きるコミュニティ音楽。さらに、何人かの日本の仲間が使っている、きわめてミクロな視点を持った見事な手法からも学ぶことができました。

私は、まさにこの「冒険的スピリット」で皆さんと対話することを楽しみにしています。それは、私たちが共同で取り組む試みを、ずっと豊かにしてくれる方法だと思います。この対話のために周到でこまやかな準備が行われているので、私のことはこれからたくさん伝わるでしょうから、ここではこれくらいにとどめておきます。逆に私は、皆さんから学ぶことも楽しみにしています。心躍らせながらそれを思い描き、活発なディスカッションとなることを願っています

直接、皆さんとご一緒できればと願うばかりですが、それは今回はかないません。でも、テーマや関心に対する熱意や興奮をわかち合えば、距離による壁は簡単に超えられることも確信しています。

では9月に！

心を込めて、ティアより